

東京・港区No 91遺跡

1 所在地 東京都港区南麻布二丁目

2 調査期間 一九八九年(平1)七月～一九九〇年一月

3 発掘機関 南麻布福祉施設建設用地内遺跡調査会

4 調査担当者 松本 健

5 遺跡の種類 近世都市(武家屋敷跡)

6 遺跡の年代 一九世紀中期

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本調査は、港区による高齢者住宅サービスセンター等新築工事に伴うものである。調査対象地は、港区のほぼ中央にあたり、東側を高輪・三田の台地、西側を麻布の台地に挟まれた沖積低地に位置する。調査は約一〇〇〇㎡が対象であったが、大部分が既に攪乱を受け、遺構が残されていたのは僅かに約二五〇㎡の範囲であった。



(東京西南部)

調査対象地は、享保八年

(一七三三)以後、旗本屋敷地として利用されたところである。江戸図を見ると、本遺跡を含むこの地域の居住者が、極めて短期間に変わっていることが確認され、本遺跡を形成した時期の住人が誰であったかを特定することはできないが、出土遺物の中には「杉山」の文字を刻んだ石臼がある。

調査によって確認された遺構は、土坑六・井戸状遺構三・土留め状遺構一・池および水路各一であった。

今回報告する木簡は、調査区の南西部に位置した隅丸矩形(長さ四m幅三m深さ六〇cm)の土坑から陶磁器・漆器・番傘部材などとともに出土したものである。

8 木簡の釈文・内容

(1)

「三十番神五番善神守護」

無諸患

140×30×5 011

上端を山形にした矩形の木簡で、顕著な欠損はない。「三十番神」とは、一カ月三日を毎日番代わりに国家・人民を守護すると信じられている三〇柱の善神で、その五番神は「氣多大明神」とされている。氣多神宮の主神は医療を能くする神とされる大国主命で、「無諸患」の文字との関連性が認められ、病除の神札と思われる。

9 関係文献

南麻布福祉施設建設用地内遺跡調査会『南麻布二丁目 港区No 91

遺跡」(一九九一年)

(松本 健)



木簡研究 第二〇号

卷頭言—機器の目・人の目—

和田 萃

一九九七年出土の木簡

概要 平城宮跡 平城京跡(1) 平城京跡(2) 青野遺跡 藤原宮跡 酒船石遺跡 長岡宮跡 長岡京跡左京一条四坊三町 長岡京跡右京六条二坊六町 平安京跡右京三条一坊三町 平等院庭園 細工谷遺跡 大坂城跡 天満本願寺跡 堺環濠都市遺跡 東浅香山遺跡 猪名庄遺跡 屋敷町遺跡 加都遺跡 明石城武家屋敷跡 境谷遺跡 茂利宮の西遺跡 安坂・城の堀遺跡 大將軍遺跡 大脇城跡 瀬名川遺跡 明治大学記念館前遺跡 千駄ヶ谷五丁目遺跡 山崎上ノ南遺跡B地点 西原遺跡 松本城三の丸跡小柳町 松本城下町跡伊勢町 三輪田遺跡 一本柳遺跡 志羅山遺跡 三条遺跡 上高田遺跡 山田遺跡 弘田柵跡 大光寺新城跡遺跡 福井城跡 金石本町遺跡 戸水大西遺跡 堅田B遺跡 七尾城下町遺跡 蛇喰A遺跡 二口五反田遺跡 清水堂F遺跡 下ノ西遺跡 中倉遺跡 大御堂廃寺 三田谷I遺跡 有福寺遺跡 高田遺跡 百間川米田遺跡 津寺遺跡 末原窯跡群(灰原上層) 萩城跡(外堀地区) 高松城跡 観音寺遺跡 上長野A遺跡 香椎B遺跡 博多遺跡群 魚屋町遺跡

一九七七年以前出土の木簡(二〇) 藤原宮跡

積文の訂正と追加(一) 山垣遺跡 袴狭遺跡(深田地区) 袴狭遺跡

入佐川遺跡 出雲国庁跡

再び長屋王家木簡と皇親家令について

八木 充

長野特別研究会の記録

信濃の古代と屋代遺跡群…寺内隆夫、七世紀の屋代木簡…傳田伊史、

七世紀の地方木簡…鐘江宏之、七世紀の宮都木簡…鶴見泰寿、律令制

の成立と木簡…七世紀の木簡をめぐって…館野和己

書評 佐藤信著『日本古代の宮都と木簡』 仁藤敦史

新刊紹介 大庭脩編著『木簡—古代からのメッセージ—』 丸山裕美子

頒価 五五〇〇円 送料六〇〇円